

平成24年度第2回函館市地球温暖化対策地域推進協議会 会議概要

1 日時 平成25年3月28日(木)午後2時~午後3時

2 場所 函館市総合保健センター2階健康教育室

3 出席者 委員(16名)

石原千鶴委員,竹内正幸委員,山本正子委員,佐藤不二子委員,陳有崎委員,
渡部鯉子委員,杉林千一委員,高橋泰助委員,工藤利夫委員,砂原壮吉委員,
辻廣孝司委員,前山芳輝委員,梅澤秀敏委員,津金孝行委員,
林充委員代理・茂原靖浩氏,藤田秀樹委員

事務局(3名)

事務局長 上岸庸晃(環境部環境総務課長)

事務局員 池田直樹(同課主査),佐藤弘康(同課主任主事)

4 傍聴者 報道関係1名

5 発言要旨

《1 開会》

《2 挨拶》

(石原会長)

皆様には年度末の最も忙しい時期にお集まりいただきまして,感謝申し上げます。

3.11東日本大震災から2年が経過し,この間,政権の交代もあり安倍総理には復興の期待もありますが,私たち一人一人は,この2年間で大きく変わることができたのか,それとも忘れていくのか問われた2年間ではなかったでしょうか。

この協議会も今年の8月で2年の任期を迎えますが,皆様にお集まりいただきのご意見をいただける機会は2年の任期の中では最後になると思いますので,心残りなく,そして,忌憚のないご意見をいただくことをお願いしまして,挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

《3 議題》

(1)平成24年度事業報告について

- ・事務局から,平成24年度事業報告について資料1に基づき説明
- ・市民ノーマイカーデー事業検討部会の活動について,資料2に基づき高橋部会長から説明

(高橋部会長)

前回報告以降の活動として,12月に第5回部会を開催し,報告書の素案を作成しました。活動の中間報告として,資料2の2~3頁に記載しています。

今年度は,ノーマイカーデーを実施したことで,現状と課題が把握できました。

中でも公共交通の利便性や市民意識の問題などの諸課題について調査・研究・実証が必要であり,次年度は,各機関と連携しながら,より多くの市民に参加してもらえ
るノーマイカーデーの実施を目指しますが,そのためにも,市民フォーラムなども必要であると考えております。

・光の街はこだてあかりプロジェクト構想検討部会の活動について資料3に基づき竹内
部会長から説明

(竹内部会長)

あかりプロジェクトの活動目的は、第一に二酸化炭素の排出削減ですが、今後、家庭や事業所等の照明、道路照明などがLED化していくことが予想される中、単に省エネルギーのみを追求せずに、現状の夜景等への影響も考慮しながら、光の街はこだてならではの発想で照明のLED化を推進するために、部会で検討してきました。

資料3の2～3頁に部会活動の3つの取組を記載していますが、1つ目がLEDライトアップモデル施設による実証実験、2つ目が夜景とあかりに関するフォーラムなどの開催、3つ目が高等教育機関との連携でございます。

とくに、平成25年度は函館山の麓にある旧相馬邸を何パターンかのLEDでライトアップする実証実験をメイン事業として活動することを検討しました。

資料3の7～8頁にあるように、この実証実験は照明学会から紹介いただいた、東芝ライテックの協力により実施するもので、どのような色味や光のあて方がきれいに見えるのか、協議会委員はじめ一般の方にもアンケート調査を行うほか、インターネットでもパターン毎の写真を公開して評価を受けることや、消費電力についても従来照明との比較を数値化して公開することを予定しています。

この実証実験を通じて、効果的なライトアップの方法を知るだけでなく、光の街はこだてならではの活動を市民や観光客など多くの方に知っていただくこと自体にも意義があり重要なことだと考えています。

以上、大変雑ぱくですが、報告とさせていただきます。

(石原会長)

平成24年度事業報告について質問、意見のある方の挙手を求めます。

(前山委員)

市民環境講座に参加したが、環境部のエコライフの話などは、多くの市民が興味深く聞いていたように思う。このような講座や市民フォーラムは、継続していくことで効果があると感じた。

(高橋委員)

市電をよく利用するので、エコライフのすすめを車内に設置しているのを見かけるが、単に設置するだけではあまり効果がないようなので、液晶ディスプレイ広告と組み合わせることだけでなく、いろいろと連携した方が良い。

(石原会長)

エコライフのすすめ は楽しく読めると思うので、少人数の集まりなどで活用すると効果的だと思う。

(山本委員)

改めてアンケート結果を見て 私自身も含めてマイカー利用が多いと感じているが、函館のバス・電車は比較的充実していると思う。

しかし、バス停までの距離は正直遠いと感じているので、何かしらの対策が必要ではないか。とくに西部地区は高齢者が多く、家族の車を利用することもやむを得ない面もある。

(石原会長)

私の経験からすると、函館のバス・電車は道内では充実していると感じる。

循環バスの取組もできていない街もあるので、まずは、今あるものの良さを認めながら、これからどうして行くかということが大事ではないか。

(工藤委員)

函館は扇型の地形のため、どうしても複雑な路線になり、結果的に系統が増え、運行間隔も長くなってしまう。

バス停の間隔は300m程度で設置しているが、地域によっては、利便性の差として感じられるのではないか。

(山本委員)

西部地区は坂が多いので、高齢者には厳しい。

(石原会長)

高齢者問題なども含め、多くの関係者が連携して取り組み、皆さんの知恵を借りて困難を乗り越えていければと思う。

(辻廣委員)

公共交通の利用に慣れるという点では、アリーナの完成後は4～5千人規模のイベントがある事や今年のGLAYのコンサート、新幹線の駅が完成するなど、今後、函館市民も公共交通を利用しての移動に慣れる必要があるし、慣れて行くと思われる。主催者等の事前告知も大切である。

(梅澤委員)

普段はバス通勤しているのでいつも乗る路線はわかるが、いざ何処かへ行こうとすると、どの路線に乗ってよいか分からない。通勤族には、町行きと言われても分かりづらいので、もっと簡単に路線が分かるようになると利用する人が多くなると思われる。

また、函館に住んでいる会社の仲間にバスの路線などを聞いても、普段マイカー通勤しているので、バスの路線が分からない状況である。

函館は多くの観光客の皆さんが訪れるので、観光客の皆さんが乗りやすいように工夫をすることで、もっと利用していただけるようになるのではないか。

(津金委員)

フォーラムは予想以上に参加者が多く、成果があった印象。今後も、取り組むことで効果があると思う。

公共交通問題は範囲が広いが、地球温暖化対策と連携して関係部局と取り組む必要がある。例えば、パーク&ライドといった手法やバスのルート検索が容易にできれば、公共交通利用の増加に繋がると思う。

(工藤委員)

スマートフォンを利用した路線検索などは、未来大学と研究を進めているが、まずは、バスの車内に経路図を表示できないか検討している。

(2)平成25年度事業計画(案)について

・事務局から、平成25年度事業計画(案)について資料4に基づき説明

(石原会長)

平成25年度事業計画(案)について質問、意見のある方の挙手を求めます。

(津金委員)

今後の予算状況について伺いたい。

(事務局)

平成25年度も今年度と同程度の予算は確保されている。

(石原会長)

同程度ということだが、予算がなくても関係機関等と連携を図りながら、いろいろな取組の実施について事務局でも検討しているとのこと。

(工藤委員)

エコドライブ啓発事業の具体的内容について伺いたい。

(事務局)

1つはエコドライブ講習会というメニューで座学と実技を行うものと、もう1つは北海道が実施している形態で、例えばショッピングセンターなどで行われるイベントの1コーナーとして、エコドライブに関する展示やパソコンを利用したエコドライブシミュレーター体験などが考えられます。

今後、北海道との協議の中で決定しますが、当協議会としては、エコドライブ講習会の実施を希望しており、エコドライブ講習会が実施できない場合は何らかの啓発イベントということになります。

スケジュールについては、北海道の委託事業ですので、5月頃に事業者決定し、その後、7月以降で雪の降る前までに事業実施と考えております。

(石原会長)

自分がエコドライブ講習会を受講した時は、すでにエコドライブを実践しているつもりであったが、燃費が3割向上して驚いた。エコドライブ講習会は、本当に効果が実感できる取組なので、皆さんも実際に受講すると、周りの人たちにも伝えやすいと思う。

他に皆さんからご意見がなければ、平成25年度事業計画は承認ということによろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(石原会長)

異議なしということで、平成25年度事業計画は承認されました。

なお、本日出された意見については、十分配慮の上、事業を進めてまいりたいので、事務局もよろしくをお願いします。

(3) 会長、副会長の選出について

・事務局から、会長、副会長の退任理由について説明。

(事務局)

石原会長、竹内副会長のお二方には、平成22年度に函館市地球温暖化対策実行計画の策定協議会から委員を務めていただいた他、当協議会が発足以来、会長、副会長として多大なるご尽力をいただきました。

石原会長は、北海道地球温暖化防止活動推進員として全道各地での活動経験や豊富な知識があり、協議会活動を牽引していただきましたが、この度、急遽、札幌市への

転出が決まりました。

また、竹内副会長におかれましては、副会長職だけでなく、あかりプロジェクトの部会長も兼務され、大変なご活躍でありましたが、所属の函館商工会議所から、協議会委員の交代の申し出がございました。

お二方の退任は協議会にとっても大きな損失であり、誠に残念ではありますが、やむを得ない事情ということで、会長、副会長の選出について、ご提案することとなりました。

後任の会長、副会長ですが、協議会規約第6条によれば、委員の互選により定めることとなっておりますが、ご異議なければ、事務局からご提案したいのですが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(石原会長)

皆さんから、異議なしの声がありましたので、事務局から提案をお願いします。

(事務局)

石原会長の後任につきましては、公立はこだて未来大学の松原委員、竹内副会長の後任は、函館市内在住で北海道地球温暖化防止活動推進員として活動されている國陶^{くにすえ}の^の信^の男^おさんに新たに委員および副会長として参画をお願いしたいと考えています。

なお、本日都合により、お二方とも協議会欠席ではありますが、本日の提案内容について、内諾いただいております。

(石原会長)

ただいま、事務局から会長には公立はこだて未来大学の松原委員、副会長には新たに協議会委員として参画される地球温暖化防止活動推進員の國陶さんとの提案がありましたが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(石原会長)

異議なしのご発言がありましたので、会長には松原委員、副会長には國陶さんが選出されました。

なお、任期については前任者の残任期間である今年の8月18日までとなります。

それでは、竹内委員から副会長退任にあたり、一言お願いいたします。

(竹内委員)

石原会長と同時に退任することとなり、まずは皆様にお詫びしたいと思います。

また、あかりプロジェクトでは毎回、様々なご意見をいただき、心強く思っていました。退任しましても、後任が委員として参画しますし、私も職場では広報を担当していますので、違う角度から支援させていただければと思います。

今後、当市ならではの取組を交えながら、当初の目的である二酸化炭素の排出量削減に向けて、具体的な施策が実行されることを願ひまして、ご挨拶とします。

ありがとうございました。

(石原会長)

それでは、最後に私から退任の挨拶をさせていただきます。

高校3年まで函館で過ごしたが、30年ぶりに函館に住んでみて、生活者の視点で街を見ることで、いろいろ感じる事ができました。

協議会会長を引き受けた時から転出の可能性について心配していましたが、今回の任期途中での退任は大変心苦しく申し訳ないと思っております。

私が道内各地で活動した経験から申し上げますと、函館市の環境部に関する取組は他都市に比べて進んでおります。例えば、環境部ニュースを発行していることやこのような協議会が設置され活動しているのは、他都市では、なかなか出来ないことなので、とてもうれしく思っております。

ふるさと函館がいつまでもすばらしい環境であるよう願っておりますし、また、あかりプロジェクトでは、いつまでもすばらしい夜景が残るようにと提案させていただきました。函館を離れましても、引き続き、北海道地球温暖化防止活動推進員としてがんばって行きたいと考えております。

約2年の間、未熟な私が皆様のご協力により会長を務めることができました。

本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(4) その他

(事務局)

その他について何かありますか。

無いようなので事務局からの連絡になります。

平成25年度の活動について、本日皆様からいただいたご意見に十分配慮しながら進めますが、ご意見・ご提案については、随時受付しておりますので、事務局にご連絡ください。

次回の総会は、平成25年8月を予定しており、今年は委員改選の年にあたりますが、改めてご案内しますので、よろしくお願いたします。

以上で、本日予定の議事は終了となりますが、函館市選出委員および事務局にも異動がございますので、お知らせいたします。

函館市からの選出委員である環境部次長の藤田が4月1日付けで企業局交通部長に昇格・異動、協議会事務局長である環境総務課長の上岸が総務部情報システム課に異動となります。

藤田委員からご挨拶をお願いいたします。

(藤田委員)

石原会長、竹内副会長には協議会発足以来、組織の結束を強めながら導いていただき改めてお礼申し上げます。

協議会委員としては、皆様からいただいたご意見について、どのように環境行政に活かすことができるのか検討した1年間でした。

交通部へ異動となりましたが、皆様と連携しながら活動できる場面もあると考えておりますので、今後ともこれまで以上にご協力、連携いただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1年間という短い期間でしたが、ありがとうございました。

《4 閉会》